

第1回 リスナー参加型 天下一学問会

高校レベル

問題用紙

世界史

作問者：Unferth
問題数：10問
記述式
解答時間：40分

世界史・解答解説

出題背景

中学-高校生向け教科書の範囲から出題した。問1-4は民主主義に関連するもので、現代の基盤となる知識である。問5-10は歴史の面白さを知ってもらえるよう心がけた。歴史はただ覚えればいいのではなく、似ているものから推論することで自分のものにできる。

解説

問1 (配点5点)

知識を問う問題。なお問2の問題文に意味深な「マグナカルタ」という用語があるため、そこから類推することも可能。
イングランド王ジョンが貴族との間で交わした勅許状で、国王の権力の制限を骨子とした。
よって回答は
マグナカルタ か **大憲章** である。

問2 (配点10点)

問1を引き継ぐ問題。マグナカルタは単独で見れば貴族と王の交渉の結果に過ぎない。しかし後のイギリスでの革命の際、マグナカルタの内容がしばしば引用され、結果的に現代でいう憲法を形作ることになった。
よって回答は
憲法のはじまりだから である。

問3 (配点10点)

いわゆる社会契約説のお話。
「なぜ人々は国家を作ったのか」というやつだ。
ホブズ自身は、国家は聖書で描かれる怪物(リヴァイアサン)であり、もしこの怪物のような権力者がいなければ国民は分裂し、「万人の万人に対する闘争」を起こすと説く。
よって回答は
国家は怪物(リヴァイアサン)であるや、平和のために怪物の支配が必要である。主権者や人民という関係等を正解とする。

問4 (配点10点)

いわゆる社会契約説のお話2。
こちらはアメリカ独立戦争をなぞれば回答を出せる。
アメリカ合衆国は英国の植民地であったが、度重なる増税に不満が高まった。最終的に彼らは英国に独立戦争を仕掛けるが、その論理的基盤がロックの理論である。ロックは国家が国民を不当に扱う場合、抵抗する権利があったとした。
よって回答は
革命権 か **抵抗する権利** である。

問5 (配点15点)

ロゼッタストーンとヒエログリフのお話。暗記でも解くことができるが、提示されている画像からの類推でも解くことができる。

ヒエログリフが読めなかったシャンポリオンはロゼッタストーンに3つの言語(ヒエログリフ、デモティック、古代ギリシア語)で文章が書かれていることに気づき、3つの言語の文章が同じ内容だと仮定してヒエログリフの解読に成功した。

これは道路標識等、現代の看板でも同じことが行われている。

だいたい日本語、英語の併記なので片方の文字が読めなくとも内容が推測できる。

このようにロゼッタストーンとこの標識は同じように読み解くことができ、シャンポリオンの経験を体験できる。

回答は以下の内容を含んだ文章を正解とする。

シャンポリオンはロゼッタストーンの3つの言語の文章が同じ内容だと仮定してヒエログリフの解読に成功した。

あるいは

標識の横浜とYokohamaが同じ内容を指すように、ロゼッタストーンもまた同じ内容をもつとシャンポリオンは仮定し、ヒエログリフの解読に成功した。

問6 (配点15点)

知識で解けなくはないが、推論を前提とした問題。

知識レベルでもたどり着けるのは「アレクサンドロスは騎兵を効果的に使用し、一点突破及びそれ以後の包囲壊滅を得意とした」という部分である。

この知識は提示された図と局面図で補うことができる。

局面図と図を比較すると以下の似た部分に気づく。

- 1.左辺で先手側はやや押し込まれている。
- 2.右辺で後手側は強く押し込まれ、崩壊寸前である
- 3.左辺に集中した後手の戦力は少なく、右辺に集中した先手側の戦力は大きい。

このため、アレクサンドロスの勝因は局所への戦力の集中にあると予想できる。

よって回答は

アレクサンドロスは戦力を集中させ、一点突破を仕掛けたため である。

問7 (配点5点)

大航海時代を問う問題。いわゆるジャブ(ないし突き捨てるの歩)レベルなので配点は控えめ。

1492年とおぼえていて回答するのが基本だが、1492年前後も回答の範囲としているので、この時代の雰囲気をつかえていれば回答することができる。

歴史の出来事にはつながりがあることを踏まえて回答してほしい。

1492年 ないし、

コンスタンティノーブルの陥落(1453年)

ヴァスコ・ダ・ガマのインド到達(1498年)

日本への宣教師ザビエル来航(1549年)等

1492年から前後100年以内の出来事を正解とする。

問8 (配点5点)

ほぼ読解問題。回答するだけなら問題文にすでに「コンキスタドールの悪行……を書いた本」とあるので、これだけでも正解できる。

が、せっくなので教科書で学んだ内容を思い出して回答してほしい。

回答の範囲の広さは、とにかく答えてもらうため。

回答は

『インディアスの破壊についての簡潔な報告』

ラス=カサス

コンキスタドールによる金品の略奪や殺人等 のいずれか一つで良い。

問9 (配点10点)

難問。今回の企画は将棋指しが中心に答えるだろうと想定しての出題。

問3に続いて暗記問題となる。

正解は

増田康宏(七段) である。

段位は変化するので、段位の間違いは不問とする。

問10 (配点15点)

簡単に歴史学を体験してもらうことを目的にした問題。

長所短所はともかく、その人物が後世に与えた影響は歴史学では必須の部分。

またその人物を「あなたがどう思うか、またなぜ評価するか」も歴史学では必須。

どういう視点でその人物・出来事の情報収集したのかも歴史学では共有されることが推奨される。

話を解き方にもどせば、さほど難しくない。

問題文で書かなければいけないことは強調してあるからである。

必須の部分は人物の長所・短所、

それを示す具体的な出来事、後世への影響、回答者による評価、☆1-5、の5項目である。

以上が記載された回答は原則正解とする。

逆に以上の点が記載されていない、あるいは甚だしく不明瞭な場合は不正解ないし部分点とする。

以下、想定解。

コロンブスを選びます。彼の**長所**はイサベラ女王に自分を売り込むことや、新大陸発見に乗り出す新しさです。他方、彼の**短所**は現地人から財産を略奪し、そのことを当時から強く批判されていた倫理観です。

以上の事実から、彼は時代を切り開いた重要な人物である一方、現代においても表彰されるべきかは疑問です。

彼の行いは**後の時代の**コンキスタドール達の**新大陸進出**のはしりであり、後の西洋による植民地支配のはしりです。

コロンブスの評価ですが、彼の像が現代で破壊されるのは妥当と考えざるを得ません。☆は**2**です。好ましい人物ではないですが、彼を避けて歴史は語れません。